

秋田大学と私 同級生

ユン・リンだ

1. 秋田大学というコミュニティの紹介

辞書によると、コミュニティというのは居住地域と同じくし、利害をともにする共同社会、町村・都市・地方など、生産・自明・風俗・習慣などで深い結びつきを持つ共同体、地域社会という意味があるそうである。自分にとってはコミュニティとはなんと言う意味でしょうか。

私にとってコミュニティとは町村・都市・地方など、生産・自明・風俗・習慣などで深い結びつきを持つ共同体ではなく、ただ、居住地域と同じくし、利害をともにする共同社会だ。つまり、現在の私のコミュニティは秋田大学、中国・韓国・ロシア・アメリカのどの様々な国から来る留学生と日本の全国の地域から来る日本人と秋田大学と一緒に勉強したり、生活したり、する利害をともにする共同社会である。そこで、私の大切なコミュニティは秋田大学というコミュニティである。なぜならば、現在、一人で日本に留学するため、多くのことを学ばせ、助け合い、楽しくさせる人は秋田大学のメンバーしかしてくれないからだ。諸国の留学生と勉強するため、異文化をだんだん分かるようになってきた。それに、急に困ることがあったら、遠いところの家族は助けられないため、そのコミュニティのメンバーの助け合いは非常に大切である。あるとき、携帯電話の料金は30万円までへんになって大変困ったが、そのコミュニティのメンバーが助けて、解決できた。一緒に楽しみを言えば、一緒に楽しく授業をとり、私が経験したことないパーティ・交流会・旅行を参加して、特に、秋大際に一緒に楽しく行うことだ。休憩の時と昼ご飯の時、一緒に留学生のみんなと食べたり、料理を交換したり、話したりして、寂しくならなく、一日楽しく過ごせるのは私にとって納得できるコミュニティである。みんながいなかったら、私はストレスになり、心理的な病気までなれるかもしれない。話すのが苦手だけど、勉強ばかりして、だれも私に話さないことが大嫌いから、少しの冗談でも、少しの勇気づけることでも、話せば、幸いなことである。そのため、現在秋田大学というコミュニティは私にとって、勉強するところだけではなく、非常に大切なコミュニティである。

2. 取材散歩に行ってみて

取材散歩というより、二階の多文化交流ラウンジにいて、ゆっくり多くの写真を見せたり、一人ずつのグループメンバーの話し合い相手について話したり、した。

みんなの話し合い相手の紹介を聞いた後、大切なコミュニティとはどんなに遠くにバラバラにいても、そのコミュニティに対する気持ちが相変わらずに連絡し、思い出し、深い関係だと言う意見もだて来た。ランオウが紹介したような家族と、ダジンが紹介したような友たちはもちろん大切だけど、私は菊池和香奈が紹介したような現在のコミュニティも大切だと思う。その大切さを見れば、今の自分と今の周りの人も楽しく生きてケルト思う。今の周りの人と大切にしてあのくくらすのが大切だと思う。今のコミュニティは新しく、壊れやすく、相手の性格・趣味よく分からないけど、今からもっとそのコミュニティの関係を深くしたく、一緒にいい思い出を作ろうと思う。

3. 話し合いの相手

秋田大学というコミュニティは広く、たくさんのメンバーがいる。先生、留学生、日本人の学生、みんなはいつも私に支えてくれたので、だれでも大切と言える。先生が「寒いから気をつけて」などといって心配したり、日本語などを教えてくれたり、留学生と日本人の学生が私と話したり、楽しく授業をとり、寂しくならないため、みんなが私にとって大切だ。ある知り合いの日本人、頭が良く、絵英語の歌が好き、明るく、ひかるという人といい思い出を作った。特に、歴史に関するものと猫が大好きが、料理を作るのが好きじゃないアリナさんと楽観的な人で、真面目な人で、料理も上手なセツエイさんがいつも私といて、一緒に食べたり、相談したり、買い物したり、した楽しみの思い出を作った。

その中から、一人の話し合い相手として選んだ人はアリナさんだ。なぜならば、つまらないとき、特に土日にも有菜さんの部屋へ行って、ドラマを見たり、自分の国のことなどの様々なテーマについて話したり、して楽しくなるということからだ。自分の国のことについて話すのはいいことだけではなく、素直に、悪いことも悪いことも話した。例えば、国の歴史などに話すことだ。彼女は歴史に関することがかなり分かったので、一緒に話すと、私はもっと歴史のことが分かるようになってきた。それ以外に、家族についてのお話もある。一番楽しいのは一緒にドラマをみることである。10月に彼女と岩手県に旅行し、多くの写真をとり、したので、親しくなってきた。一緒に韓国人の友達の誕生日のパーティに参加して、食べて、ゲームをしたので、すごく楽しかった。

4. 話し合い結果

アリナさんと秋田大学について話し合った。彼女にとって大切だと言えないが、だんだん楽しく、親しくなっていると聞いた。先生、友達と交流したり、生活したりして、いい思い出を作っているからだ。秋大際は彼女にとってあまり面白くないが、私にとって大変疲れたが、楽しい祭りで日本人の学生と留学生がもっと親しくなってくるときである。

しかし、セツエイさんとガールさんなどの同じ授業をとる留学生に対して、彼女は親しく感じるといった。一緒に相談したり、勉強したり、食べたり、などの理由をあげた。今から、彼女はもっと秋田大学のコミュニティと親しく、楽しくして、いい思い出を作ろうと言った。特に、「寂しいとき、私の部屋来てね。一緒にドラマを見る。」と私に言った。

5. コミュニティのために、今からやりたいこと

他の人がそのコミュニティについてどのように見ても、私にとって大切なコミュニティである。ほかの人に書いてみせるためではなく、自分のためもっとそのコミュニティの大切さを深く見たく、一年間の日本に留学時間を大切に楽しく、いい思い出を作りからだ。そのコミュニティのために、はっきり分からないが、ただ、もっと一緒に話したり、交流したり、活動したり、したいと思う。最近、そのコミュニティが少し離れるとを感じるから、もっと迫る必要があると思う。例えば、そのコミュニティのイベントに参加して、みんなもっとなかよくできるかもしれない。それに、毎日できることは、みんなに会うときは知らないふりにしないで、すこしでも、挨拶などをする事だ。特に、同級生にもっと話そうと思う。

6. 「コミュニティ」「コミュニケーション」とはなにか。

この授業が終わって、いま、わたしは「コミュニティ」とは一人だけのことでなく、集団、グループの人がバラバラにいても、一緒にいても、お互いに助け合ったり、お互いのことを考えたり、情報を交換したり、お互いに関係があるということだと思う。「コミュニケーション」とは人間関係のために、気持ちや情報を、相手からもらったり、伝えたり、する交流のことだと思う。

7. クラスについての感想

最初は自家から、一人で離れてから、家族というコミュニティについて書こうと思っていたが、もう一度考えてみると、一人で暮らすから、もっと近くの人から温かい気持ちをもらいたく、親しくなりたく、家族みたいに一緒に日本にいる間を暮らしたいから、秋田大学というコミュニティの大切さを考えさせて見たような授業だと思う。この授業がなくても、考えられるが、そんなにそのコミュニティの大切さを気がつかなくなるかもしれない。また、そのコミュニティのため、やりたいことはどうすればいいか、考えさせる授業みたいだ。具体的のやりたいことを考えるのがなかなか難しいが、そのコミュニティがもっと親しくなれる方法を考えるのが必要だと思う。私にとって、このクラスは、コミュニティが大切だというより、そのコミュニティの大切さを深く考えさせて、そのコミュニティのために、やりたいことを考えさせる授業だと思う。